

一般質問



さいとう かずふみ
齋藤 和文 議員
(公明会)

ウイルス対策と予防接種について

問 新型コロナウイルスの現状（世界と日本）と感染防止対策について。

部長 2月14日段階では世界の感染者約6.5万人、死者約1400人、国内感染者30人、死者1人であり、いまだ拡大が続いている状況。国内では指定感染症及び検疫感染症に指定し、医療体制や検疫体制を整備し感染防止に努めている。

問 発症時の行政及び企業の対策について。

部長 社内で発症もしくは感染の疑いのある者が発生した場合、県疾病対策課または厚生労働省の相談ダイヤルに連絡、もしくは医療機関に事前連絡しての受診となる。

問 基本的予防策については。

部長 通常の季節性感染症と同じ対策、手洗い・うがい・咳エチケットに尽きると考える。

問 肺炎球菌ワクチン接種の予防接種割合と経過措置の延長と再周知について。

部長 定期接種と任意接種併せて、約40%の状況である。平成30年度に終了予定だった経過措置については5年間延長され、再通知についても2月に令和元年度対象者に通知を発送した。

問 小児がん※の患者数と再予防接種について。

部長 患者数は統計上、1万人に1人発症しており、富士宮市0 - 14歳児人口1.6万人に当てはめると1.6人と想定される。小児がんの治療によって治療前に受けた予防接種が効果を失う。再予防接種を個人で行う場合、全額自費となり、全て再接種した場合約20万円必要となる。このことから市単独事業として実施の方向で検討する。令和2年度の中で庁内的にも検討し、現場としては実施の方向で進めていく。

※小児がんとは、乳幼児から15歳までにかかる悪性腫瘍の総称。種類としては、白血病・脳腫瘍・脊髄腫瘍・神経芽細胞腫・リンパ腫などが該当する。



ふかさわ りゅうすけ
深澤 竜介 議員
(令和)

富士医療圏の医療体制について

問 救急医療の問題点として、搬送先の病院が決まるまでの時間がかかる、いわゆる630問題（搬送先が決まるまで30分以上かかる。6か所以上電話する。）があるが、現状はどうか。

部長 富士医療圏は静岡県内で一番悪い。

問 富士医療圏の今後を考える上で、病院間の連携は避けて通れないと考えるが、いかがか。

市長 富士宮市立病院と富士市立中央病院との統合は考えていない、共立蒲原総合病院は存続させる。

富士宮市立病院の経営形態について

問 市立病院の経営形態はどういう形か。

部長 地方公営企業法の一部適用で、開設者も経営者も市長である。

問 経営形態として、地方公営企業法の全部適

用、独立行政法人化の長所短所はどうか。

部長 全部適用の場合、意思決定の迅速化が図られ、独自の給与体系を定められるが、市立病院は地方公共団体の一部であることに変わりはなく、他部署職員との均衡を考えると、実施にあたり困難な場合も多い。地方独立行政法人は、法人の代表を市長が任命し、理事長が経営責任者となり、人事・組織・予算等々の権限を有する。経営の裁量の自由度が高く、効率的な事業運営が期待できるが、職員の身分が公務員でなくなるため、十分な検討が必要である。

朝霧に計画されているバイオマスプラント

問 乳牛2千頭分の牛糞尿が投入されるようだが、それ以外のものの投入はあるのか。

部長 発電効率を上げるため、副資材の投入を予定している。

問 牛糞尿以外のものが投入されるとなると、産業廃棄物処理施設なのか。

部長 県の廃棄物リサイクル課が担当しており、明確な判断がまだ出ていない。